

御本殿

本殿は鶴岡八幡宮の最も神聖な場所です。武士と日本国の守護神である八幡神とされる応神天皇が、その母である神功皇后および比売神と共に祀られています。この聖域は、かつて山の麓にあった本殿が火事により焼けた後、1191年に山腹に再建されました。神社を築くため、山の一部を大きく取り除かねばなりませんでした。大石段の上の新しい場所は、鎌倉の町全体の眺望を提供すると共に、町から広がることの多かった火災からの保護にもなりました。御本殿の屋根梁は、水を表徴する三つ巴、三つのコンマのような形からなる渦巻き模様により装飾されています。三つ巴は古くからある水の象徴であり、また火災除けの信仰でもあります。

本殿の建物は何度も再建されてきました。重要文化財に指定されている現在の建物は1828年に建てられたものです。本殿と幣殿、拝殿から成っており、江戸期（1603年-1867年）の武家に崇敬された神社の多くと同様の建築様式、流権現造の一つ屋根の下に、それらが纏まっています。本殿へは楼門から入る事ができ、その楼門には悪霊から聖域を守る二体の守護神の像が置かれています。本殿の西側の廻廊には、鶴岡八幡宮ゆかりの文書や武具、その他の歴史的遺物などが展示されている宝物殿があります。本殿と宝物殿の間には、応神天皇の忠臣であり、長命であった武内宿禰が祀られている武内社があります。伝説によると、武内は齢280歳まで生きたとされ、健康長寿の神として祀られています。